

令和4年度 事業報告書

厚生労働省は令和3年度介護報酬改定で、新型コロナウイルス感染症や大規模災害が発生するなか「感染症や災害への対応力強化」を図るとともに、団塊世代の全てが75歳以上となる2025年と、要介護者数がピークとなる2040年も見据えて「介護保険制度の持続可能性を維持しながら「地域包括ケアシステムの推進」「自立支援、重度化防止の取組の推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」を示しました。私たちは法人理念「笑顔の創造 心と心意気」のもと「地域福祉の拠点」となり①その有する資源やノウハウを最大限に活用する ②施設・在宅サービスを提供する ③地域の要介護者等を支援する ④地域福祉の増進に寄与する ⑤地域包括支援センターと密接に連携し、最良の介護サービスを継続して提供できる体制整備に取り組みました。

1 中期経営計画書(令和2年度～令和5年度の重点事項)

1. 社会福祉法人として、地域に福祉ニーズがあれば積極的に公益的取り組みを検討し実践。

2. ご利用者の尊厳を守る生活支援の質の向上。 3. 介護職員等の採用活動を強化。

4. 働きがいがあり魅力ある職場づくり。 5. 災害や感染症等に対して事業継続(BCP)を可能にする体制整備。

2 適正に事業を運営

令和5年3月31日時点

1. 介護老人福祉施設+ショートステイ 合計稼働率89.2%(目標98% 前年比△1%)

2. 介護老人福祉施設(特別養護老人ホーム 略・特養)

・稼働率 94.0%(目標96% 前年比+1.4%) ・平均介護度 3.9(△0.09)

・新入居者 23名(男性4名 女性19名) 入居前:自宅1名 医療機関13名 老人保健施設2名 その他7名

・退居者 24名(男性5名 女性19名) 死亡22名(看取り14名 医療機関8名) 自主退居2名

・介護度別 介護2・1名(△1名) 介護3・27名(+5名) 介護4・31名(+3名) 介護5・18名(△8名)

・出身地 福井市74名 鯖江市2名 県外1名

3. ショートステイ(短期入所)

・稼働率 69.2%(目標100% 前年比△15.2%) ・平均介護度2.15(△0.06)

・特養の職員補充をショートステイ職員3名が応援した。1ユニット体制を令和4年12月から令和5年3月行う。

4. デイサービスセンター(通所介護)

・稼働率 54.2%(目標80% 前年比+6.5%) ・平均介護度2.47(+0.19)

・登録者数 41名(+4名) 内訳: 要支援者9名(+1名) 要介護者32名(+3名)

・地区別数 文殊28名(+5名) 上文殊2名(△1名) 麻生津9名(△1名) 東郷1名 六条1名

5. 居宅介護支援事業所(略・居宅)

・登録者 61名(△3名) 内訳: 要支援者9名(0名) 要介護者52名(△3名)

・地区別数 文殊21名 上文殊13名 麻生津13名 東郷1名 六条1名 清明5名 他7名

3 管理部門

1. 社会福祉法人として地域に福祉ニーズがあれば積極的に公益的取り組みを検討し実践。

(1) 福井市社協への協力 (1)ショッピングセンターベルのサロン事業に参加・地域福祉活動発表会の発表に協力。

(2)ボランティア情報誌に「不用布募集」記事を掲載。(3)賛助金の提供。(4)共同募金に協力。

(2) 福井県社協への協力 (1)共同募金に協力 (2)外国人技能実習生PR事業の協力(動画撮影・説明会の参加)

(3) 福井市障がい福祉課への協力 (1)福井ケーブルテレビ いきいき情報ふくい「重層的支援体制整備事業」撮影に協力。

(4)日本赤十字社 福井県支部主催の防災セミナー開催(防災委員会等の職員) 避難所運営・非常時炊出し訓練を行う。

2. 介護職員等の採用活動を強化し、幅広い分野から優秀な人材の獲得。

(1) 少子化による学生の減少と新型コロナの影響により、採用活動は感染対策と効果的な方法を検討し取り組んだ。

(1) 採用 5名 ①新規学卒採用 2名: 介護職員1名(専門学校) 栄養士1名(短期大学)

②中途採用 3名: 介護職員3名(実習生1名、ハローワーク2名)

(2) 外国人介護技能実習生の受入 タイ人2名: 福井県社協(監理団体)、県介護福祉士会(受入前研修)と連携した。

(2) 職員募集の広報(1)ハローワーク①窓口を訪問 ②就職面接会に参加 (2)ホームページ“インスタグラム”を充実した。

(3) 新規学卒、中途採用対象の就職説明会等に参加し、特に中途採用募集を強化した。

(1) 福井県: ふるさと企業キャリアフェア3月

(2) 福井県社協: 福祉就職フェア6月・3月、オンライン見学会3月

(3) 高校生: 県内高校(福井・丹南地区等)訪問7月 (4) 介護労働安定センター: 就職支援ガイダンス参加10月・1月

(4) シルバー人材の受入れ体制整備。60歳以上職員20名(介護6名、看護5名、調理2名、運転3名、清掃2名、宿直2名)

3. 働きがいがあり、魅力ある職場づくり。「ES(職員満足度)向上によるCS(顧客満足度)向上」

(1) 介護サービスの質の向上に取り組む職員を育成及び職員の処遇向上に取り組んだ。

(1) 職員表彰 ・10年勤続職員 7名 (2) 産休・育休の取得者 5名

(3) 特別有給休暇制度 ・家庭等での新型コロナ濃厚接触者等を対象。(新型コロナ感染対策 令和4年9月末迄)

(4) 処遇改善手当等の支給 ・ベースアップ等支援手当の支給を開始した。(令和4年10月)

(5) 親睦会等の支援 ・年2回6月・1月に弁当(焼肉、うなぎ)を全職員に提供した。

(6) 安全運転の管理業務 ・安全運転管理者を配置 ・酒気帯び及び体調等の確認 ・安全運転研修の開催

2) 職員の健康維持・増進のために、負担の少ない介護技術の研究を実践する。

- (1) 介護ロボットの導入 ・特別浴槽とストレッチャー購入、特浴室の改修。 ・介護福祉機器展(東京)に職員派遣。
- (2) 腰痛防止の対策 ・定期的に腰痛チェックを実施。 ・ラジオ体操の徹底。(毎日14時50分より館内放送)
- (3) 産業医と連携 ・毎月、相談日を設け健康相談等の対応、館内の巡回・新型コロナ感染対策等の指導を受けた。
- (4) ハラスメント対策強化 ・ハラスメント撲滅宣言周知 ・重要事項説明書(入居者等からの行為)を家族に説明した。

4. 感染症や非常災害に対して事業継続(BCP)を可能にする体制を整備し、ご利用者の安全確保等に取り組んだ。

1) 新型コロナウイルス感染症(新型コロナ感染症)の感染予防・感染対策の徹底をした。

- (1) 発生時用の感染防止衛生資材の在庫を保有した。アルコール消毒液、不織布マスク、ガウン、使い捨て手袋等
 - (2) 家族の面会 : 県の感染対策等を参考に対応した。 ①ガラス越し(週4日、3組、15分) ②オンライン面会
 - (3) 職員に対する感染対策を行う。
 - ①感染対策室の設置 : 発生時の感染対策、職員への周知(健康観察、県外往来の注意)、抗原検査キット配布等
 - ②レッドゾーンチームの結成 : 感染者の発生ユニットでの介護業務、まん延防止対策等を行う職員を教育した。
 - ③研修の実施 : ・防護具の脱着訓練(全職員) ・発生時を想定しゾーニング訓練(まん延防止の訓練)等
 - ④コスモス感染対策強化期間等の設定 令和4年7月~8月 ・ R5年1月
 - (4) 嘱託医及び産業医と連携して、新型コロナ感染症等の感染対策及びまん延防止等に取り組んだ。
 - ①・新型コロナ感染症の感染者発生 特養入居者1名(令和4年8月) ・ ショート利用者1名(R5年1月入院)
・特養、ショートステイ、デイサービスセンターにおいてクラスター発生(感染者5名以上)はありません。
 - ②ユニットのゾーン分け体制、入居者の健康管理、職員のメンタル対策・健康管理等を行った。
 - ③全職員に抗原検査キットを配布した。9月全職員検査、体調不良・県外往来等に検査等を行った。
 - ④まん延防止等を目的に事業所の営業を一時制限した。ショートステイ休業22日間、デイサービス休業4日間
 - (5) 行政と連携 福井県 : 社会福祉施設感染症対策チーム員に登録(1名)
福井市 : ワクチン接種 4回目(令和4年7月)、5回目(令和4年12月)
- 2) 自然災害発生時の研修を行う。(1)福井市土砂災害のハザードマップを確認した。避難方法・避難場所を確認した。

4 生活支援部門

1. 地域包括ケアシステムを推進するために地域包括支援センター(略・包括)等と連携した。

- 1) 居宅 ・多重問題ケース(障害、困窮等)を包括と連携して在宅生活の継続を支援した。4件
・認知症サポーター養成講座を包括と連携して実施した。(文殊小学校)
- 2) 特養 ・地域性を重視し、東足羽、麻生津地区の特養申込者の方を優先し対応した。
- 3) デイサービス ・デイサービス便りを毎月、利用者家族、包括、居宅等に郵送した。

2. ご利用者の尊厳を守る生活支援の質の向上。

- 1) 職員の人権感覚を高め、職員による高齢者虐待ゼロ・身体拘束ゼロを継続した。
- 2) 生活に潤いを与え、心身の健康増進に取り組んだ。
 - (1) 園芸療法 ・トマト、イチゴ、えんどう豆、そら豆の苗植え、収穫体験を行った。えんどう豆等をユニットで調理し味わう。
・チューリップの球根を植え開花を楽しんだ。 ・バラ園等を散歩し観賞した。 ・館内に四季の花を飾る。
 - (2) 音楽療法 ・感染対策によりデイサービス、ショートステイにおいてミニ音楽会等を開催し楽しんだ。
 - (3) 芸術鑑賞療法 ・展示品の一部の設置場所を変更した。(地域交流センターから一部を移動した)
 - (4) 新鮮で安全な食材を使用 ・地域業者の食材を積極的に活用した。 ・サンマ焼、焼き芋等を実施した。
- 3) 介護サービスの強化によるケアマネジメント(適切で効果的なケア)を推進した。
 - (1) 認知症高齢者の自立支援 ・食事の楽しみ 9月上用饅頭 12月クリスマスケーキ・そば打ち 2月ふるさと献立等
・ユニット単位のレクリエーション、体操、季節ごとの環境作り等を行った。
 - (2) 口腔ケアの向上 ・歯科医師が訪問(毎月)し介護職員等が指導を受けた。
 - (3) 褥瘡発生ゼロ ・食事(栄養)、排泄、体位交換等を円滑に行えた。

3. 役割人事制度(キャリアパス)と連動させて高い専門性を有する人材を育成した。

- 1) 全体研修等 ・オンライン研修等に参加(全国老人福祉施設大会等) ・医療的ケア研修(吸引等)1名。

4. 家族との関係。

- 1) 懇談会の対応 ・家族への送付文書に“ご意見欄”を設けた。 ・意見箱を設置した。(玄関)
- 2) 家族へのお知らせ ・一筆便(写真等)を毎月送付した。 ・生活相談員等から電話で体調等を説明した。

6. 地域福祉の推進に取り組んだ。

- 1) コスモスロード、バラ園等の整備を行った。コスモスの花を提供。文殊こども園、文殊小学校、文殊公民館
- 2) 日赤奉仕団文殊分団より、作業済み古新聞の提供を受けた。(感染対策により活動内容を変更した)
- 3) 介護職養成校(実習生)より5名を受け入れた。 専門学校生2名、介護職員初任者研修生3名